

CSR活動の確認と改善

日立がめざすもの：CSRとの統合による経営品質の改善



私たちの社会は、地球温暖化や貧困、社会的差別などさまざまな課題に直面しており、その解決に向け企業への要請や期待が高まっています。

日立は、こうした期待に応えるため、経営とCSRを統合し、組織全体および日々の事業慣行にCSRを組み込み、PDCAサイクルを通じて、経営品質の改善を図っています。また、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、社会との信頼関係を確認し、ステークホルダーと価値観を共有することにより、社会の持続可能な発展とグローバル企業としての経済的成長の両立をめざします。また、経営層が先頭に立って、グローバルな社会課題の解決に事業を通じて貢献するための施策を進めていきます。

2016年度 活動オーバービュー



2016年度は、「サステナビリティ戦略会議」設置の準備を進め、2017年4月に新体制がスタートしました。また、グローバルでCSR活動を共有するためのグローバルCSR会議や地域別のCSR会議も継続的に開催しています。

主な活動計画と実績

CSRマネジメントの継続的強化

施策	2016年度計画	2016年度実績	達成レベル	2017年度計画
CSR戦略における組織とガバナンスに関する施策を通じた組織活動へのCSRの組み込み	・コーポレート部門全体でのCSR活動の推進	・各部門の最新の取り組みをCSR推進チーム会議で共有(2018中計達成に向けたブランド・コミュニケーション戦略、2016研究開発戦略、働き方改革、コンプライアンス規程改訂)	★★★	・2017年度CSR活動計画を策定し、成果を共有
	・CSRに関する経営層への理解浸透	・経営会議、取締役会議における環境長期目標の審議、承認 ・執行役社長兼CEOにサステナビリティ戦略会議の2017年度からの開始を提案、承認	★★★	・サステナビリティ戦略会議において、経営層へのサステナビリティに関するレクチャーを実施

CSR活動の確認と改善

施策	2016年度計画	2016年度実績	達成レベル	2017年度計画
グループ・グローバルなCSRネットワークの発展	<ul style="list-style-type: none"> 各国・地域における日立グループCSR会議を開催 	<ul style="list-style-type: none"> インド、欧州、豪州において地域別CSR会議の開催 	★★★	<ul style="list-style-type: none"> 全6拠点による日立グループCSR会議の開催
社外評価を活用したPDCAサイクルによる、マネジメント品質の改善と向上	<ul style="list-style-type: none"> DJSI World Index 選定 グローバル評価への対応強化 	<ul style="list-style-type: none"> DJSIに8年連続で選定 CDP気候変動/水、CDPサプライチェーンへの対応 EIRIS、MSCI Sustainalyticsへの対応 開示要求度分析の実施と結果の関係者への共有 	★★★	<ul style="list-style-type: none"> DJSI、CDP、EIRIS、MSCIなどグローバル評価への対応強化の継続
教育やボランティアなどを通じた社内へのCSRの意識浸透	<ul style="list-style-type: none"> 日立ボランティアデーの推進 従業員ボランティア活動の啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> 日立ボランティアデー実施内容調査、データ回収・集計 従業員向けメールマガジンの発行再開 	★★★	<ul style="list-style-type: none"> 日立ボランティアデー実施 「買って社会貢献」など従業員が参加する社会貢献プログラムの実施
	<ul style="list-style-type: none"> 環境eラーニング(2016年度版)の日・英・中でのグローバル受講展開 	<ul style="list-style-type: none"> 日立のeラーニングシステム「Hitachi University」にて実施、14万人以上が受講 	★★★	<ul style="list-style-type: none"> 受講期限が3年間のため、引き続き受講を推進
	<ul style="list-style-type: none"> CSR eラーニング(改訂版)の日・英・中でのグローバル受講展開 	<ul style="list-style-type: none"> 日立のeラーニングシステム「Hitachi University」にて実施、12万人以上が受講 	★★★	<ul style="list-style-type: none"> 各種階層別教育へのCSR講義の追加
情報開示を通じたステークホルダーとのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 統合報告、サステナビリティレポート、会社概要の発行と各レポートの次年度に向けたプロジェクト体制の強化 ステークホルダーからのフィードバックの収集 	<ul style="list-style-type: none"> 統合報告書2016の発行と課題抽出、2017年版の掲載項目の検討 サステナビリティレポート2016の発行とWebサイト改訂。2017年版に向けGRIスタンダードおよび開示要求度分析などに沿った開示内容の検討 	★★★	<ul style="list-style-type: none"> GRIスタンダード、開示要求度分析などをベースとした情報開示範囲の拡大

★★★: 達成 ★★: 一部達成 ★: 未達成

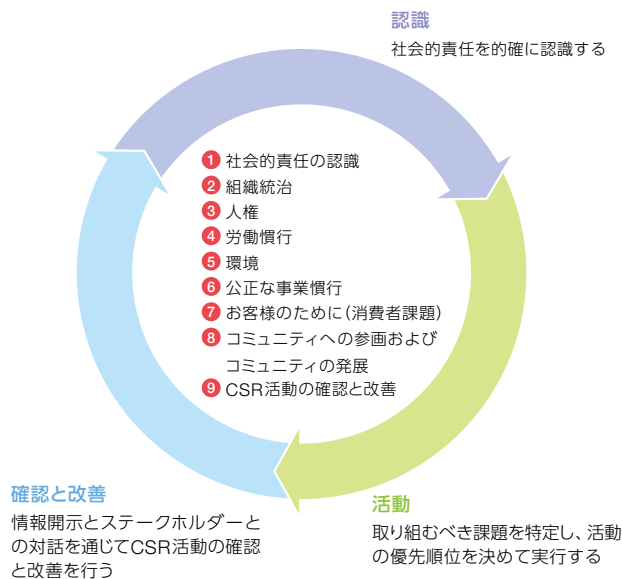
CSRマネジメントの継続的強化

日立のアプローチ

日立は、ISO26000をベースとした「CSRマネジメントフレームワーク」のもと、経営とCSRの統合を進めてきました。2017年には経営・事業責任者レベルが出席する「サステナビリティ戦略会議」を発足させ、グループ全体でサステナビリティに取り組む体制を再編しました。同会議を中心に日立のサステナビリティ戦略を推進していきます。グローバルCSR会議の開催や各国・地域が主体となったCSR活動も積極的に展開し、日立全体でグローバルなCSRネットワークをさらに強化しています。また、ステークホルダーとのコミュニケーションの起点となる情報開示を重視しており、「GRIスタンダード」の開示要求項目に適応した「サステナビリティレポート」を通じて、ステークホルダーのニーズに対応しています。

度からは、社会イノベーション事業を積極的に推進する日立の事業戦略を踏まえ、経営とCSRの統合をより一層進めることを目的に、企業の社会的責任のグローバルスタンダードであるISO26000をベースとしたフレームワークを採用し、9つの主題のもとPDCAサイクルを回しながらCSR活動の継続的な向上を図っています。

CSRマネジメントフレームワーク



日立のCSRマネジメントフレームワーク

日立は、CSRの原点である企業理念と日立創業の精神を踏まえて策定した「日立グループ・ビジョン」を実現するため、2005年度に定めた「日立グループCSR活動取り組み方針」を活動の基本として日立全体で共有してきました。2014年

日立が取り組む重要項目

日立は、変化する社会の課題や要請を的確に認識した上でCSR活動に取り組んでいます。日立製作所では2015年度から2016年度第1四半期にかけて、経営とCSRの統合を強化していくために、2018中期経営計画を踏まえた自社視点によるCSR活動の優先順位づけを行いました。その結果、「社会イノベーション」「環境」「協創」を3つの重要項目と位置づけました。それぞれの項目でめざす姿を策定し、「CSRマネジメントフレームワーク」を、めざす姿を実現するための土台と位置づけ、積極的に活動を推進しています。

日立の重要項目

重要項目	めざす姿
社会イノベーション	あらゆるものがつながるデジタル技術を活用し、社会が抱える課題に最適なソリューションを提供していく
協創	さまざまなステークホルダーとともに課題やビジョンを共有し、解決策を提案・実行することで、社会に新たな価値を創造し、ネガティブなリスクを最小化していく
環境	バリューチェーン全体で気候変動、資源、生態系といった環境課題を解決していく

重要な報告テーマとバウンダリー

日立は、CSR活動の成果を報告するにあたり、ステークホルダーの関心を踏まえた報告テーマの選定を心掛けています。経済・社会情勢などを背景に、変化を続けるステークホルダーの関心事を捉えるため、2014年度から、「CSRマネジメントフレームワーク」の9つの主題における取り組み項目の具体化を進めてきました。ステークホルダーによる優先順位づけや外部コンサルタントによる分析や有識者の意見を取り入れながら、9つの主題に則した取り組み項目を定めて、ESG投資指標やSASB*1などを踏まえた選定プロセスを実施し、CSR担当役員のレビューを経て本年度のレポートより反映しました。

また、各報告テーマにおけるバウンダリー（組織内および組織外の重要性）を明確化し、社会へのインパクトをよりきめ細かく反映することをめざしています。

*1 SASB: Sustainability Accounting Standards Board (米国サステナビリティ会計基準審議会)の略称

重要な報告テーマとGRIスタンダード

主題	重要な報告テーマ	GRIスタンダードにおけるマテリアルな項目	マテリアルな項目の該当範囲	
			組織内	組織外
① 社会的責任の認識	サステナブル&イノベティブな経営の実現	GRI 203 間接的な経済インパクト	●	●
	対話を通じた課題把握およびイニシアティブ参画		●	●
② 組織統治	経営の効率性と透明性の追求		●	●
	規範・価値観のグループ共有	GRI 205 腐敗防止 GRI 419 社会経済面のコンプライアンス	●	●
	多面的なリスクマネジメントの推進		●	●
③ 人権	バリューチェーンを通じた人権尊重	GRI 412 人権アセスメント GRI 408 児童労働 GRI 409 強制労働 GRI 410 保安慣行 GRI 411 先住民族の権利 GRI 414 サプライヤーの社会面のアセスメント	●	●
	労働者の権利の尊重	GRI 402 労使関係 GRI 406 非差別 GRI 407 結社の自由と団体交渉	●	
④ 労働慣行		GRI 401 雇用		
	公正・公平な職場環境の実現	GRI 402 労使関係 GRI 202 地域経済での存在感	●	
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	GRI 405 ダイバーシティと機会均等	●	
	労働安全衛生の推進	GRI 403 労働安全衛生	●	
	ともに成長するグローバル人材戦略	GRI 404 研修と教育	●	
⑤ 環境	環境経営の推進	GRI 201 経済パフォーマンス	●	●
	環境マネジメントの継続的強化	GRI 302 エネルギー GRI 305 大気への排出 GRI 306 排水および廃棄物 GRI 307 環境コンプライアンス GRI 308 サプライヤーの環境面のアセスメント GRI 404 研修と教育	●	●
	環境リスク・機会への対応	GRI 201 経済パフォーマンス	●	●
	低炭素社会の実現	GRI 301 原材料 GRI 302 エネルギー GRI 305 大気への排出	●	●
	高度循環社会の実現	GRI 303 水 GRI 306 排水および廃棄物	●	●
	自然共生社会の実現	GRI 304 生物多様性	●	●
⑥ 公正な事業慣行		GRI 419 社会経済面のコンプライアンス		
	国際規範に則った事業慣行の推進	GRI 205 腐敗防止 GRI 206 反競争的行為 GRI 415 公共政策	●	●
	責任ある調達	GRI 204 調達慣行 GRI 414 サプライヤーの社会面のアセスメント GRI 308 サプライヤーの環境面のアセスメント	●	●
⑦ お客様のために(消費者課題)	顧客満足の追求	GRI 417 マーケティングとラベリング	●	●
	製品・サービスへのアクセシビリティ追求	GRI 417 マーケティングとラベリング	●	●
	品質・安全管理の徹底	GRI 416 顧客の安全衛生 GRI 418 顧客プライバシー GRI 419 社会経済面のコンプライアンス	●	●
⑧ コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	継続的なコミュニティ参画・開発活動の推進	GRI 413 地域コミュニティ	●	●
⑨ CSR活動の確認と改善	CSRマネジメントの継続的強化		●	

サステナビリティ マネジメント体制への再編


日立製作所では2013年10月に、旧CSR本部と旧地球環境戦略室を統合し、CSR・環境戦略本部を発足させました。2014年度から新組織の目標として策定した「日立CSRのステートメントおよびミッション」をビジネスユニット(BU)およびグループ各社と共有してきました。

2017年4月には「サステナビリティ戦略会議」を設置し、その下に推進体制を再編しました。

日立全体のサステナビリティの方針や活動については、サステナビリティ推進委員会を立ち上げ、CSR・環境戦略本部が事務局となって、各BUやグループ会社のサステナビリティ戦略推進担当者と推進していきます。サステナビリティ推進委員会は、本社のCSR関連部門とCSRコーポレート

会議を定期的開催するほか、BUやグループ会社のCSR担当部署とCSR責任者会議を開催しています。また日本国外の地域統括会社と海外地域別CSR連絡会を定期的開催して方向性を共有しながらサステナビリティ戦略を推進していきます。

日立全体でグローバル企業としての責任を果たせるよう、日本国外の地域統括会社とも協力しグローバルにステークホルダーダイアログを実施し、世界の社会課題を経営課題として取り入れるとともに、社会的責任を果たしているかを確認しつつ継続的に改善することによって、サステナブルな経営と社会の実現に努めています。

 サステナビリティ戦略会議の取り組み

日立CSRのステートメントおよびミッション

日立は、多様なステークホルダーとのコミュニケーションを通じて社会・環境面でのグローバル社会の期待を正しく理解し、それらを経営に反映させることによって、サステナブルな社会の実現をめざします。

- 社会課題の解決に貢献するCSR・環境活動
- 持続可能な経営を実現するガバナンス
- ステークホルダーとの相互理解を促進するコミュニケーション

サステナビリティ戦略推進体制

